

令和 6 年 5 月 14 日現在

機関番号：25403

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2023

課題番号：17K04568

研究課題名（和文）三分岐型から二分岐型への中等学校制度改革に伴うドイツ教育評価制度の再編と機能変容

研究課題名（英文）Functional transformation of educational evaluation in Germany with the secondary school reform from a three-stream to a two-stream system

研究代表者

卜部 匡司（Urabe, Masashi）

広島市立大学・国際学部・教授

研究者番号：30452600

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、ドイツの教育評価制度の再編プロセスを解明したうえで、その制度の機能的変容を明らかにした。ドイツでは、これまでの三分岐型中等学校制度が、二分岐型の制度へと再編されている。その一方で、教育評価制度は、依然として三分岐型の修了資格を堅持している。ドイツの教育評価制度は、中等教育制度内での接続ルートを拡大する方向での再編が進み、どの学校からも大学入学資格の取得を目指すことができるように変容している。したがって、制度的には三分岐型の基本構造を堅持しつつ厳密な評価は維持しながらも、その機能を、分岐点での振り分け（ジャッジ）から目的地までの道案内（ガイド）へと変容させていると解釈できる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、ドイツの教育評価に関する制度研究であり、評価観や評価技術論についての研究とは性質が異なる点にある。教育評価制度が選抜制度を通じて階級の再生産に寄与するという批判理論的な言明ではなく、システムの機能に注目した機能的記述を教育評価制度の分析に援用できたと言える。そして本研究の社会的意義は、教育評価制度の機能を社会システム論の視座から記述しようとしている点にある。機能的記述により、教育評価制度のもつ社会的動態の一端を描くことができたと考えている。

研究成果の概要（英文）：This study identifies the restructuring process of the German educational evaluation system and then describes the functional transformation of the system. In Germany, the previous three-branch secondary school system has been restructured into a two-branch system. On the other hand, the educational evaluation system still maintains the three-branch system of graduation qualifications. This evaluation system has been restructured in the direction of expanding the connecting routes within the secondary school system and has been transformed in such a way that students from every type of school can aspire to obtain a university entrance qualification. Therefore, it can be interpreted that the German educational evaluation system, while maintaining the basic structure of the three-branch system and strict evaluation, is transforming its function from a judge at the junction point to a guide to the destination.

研究分野：比較国際教育学

キーワード：教育評価制度 ドイツ

1. 研究開始当初の背景

- (1) PISA 調査開始以降、学力と評価は世界的な関心となっている。とりわけ「PISA ショック」を経験したドイツでは、カリキュラムと評価についての見直しが行われており、抜本的な改革が進められてきた。こうした中で、ドイツの教育改革の動向に関する研究がよりいっそう求められている。
- (2) これまでの研究では、ドイツの教育評価制度の歴史的展開過程とその機能的変容の解明に取り組んできた。特に、先行研究「三分岐型から二分岐型への中等学校制度再編に伴うドイツ教育評価制度の変容」では、これまでのドイツに典型的であった三分岐型の中等学校制度が二分岐型へと再編されるなか、その教育評価の制度はどのように変容しているのかについて、その変容過程を構造的に解明した。本研究は、これらの研究の延長線上に位置づくものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、これまでのドイツに典型的であった三分岐型の中等学校制度が二分岐型の制度へと改革される中で、その基盤となる教育評価制度がどのように再編されようとしているのか、またその再編により従来の教育評価の機能がどのように変容しているのかについて、近年の動向を踏まえて考察することである。

3. 研究の方法

- (1) 中等学校制度の再編に伴う教育評価の制度的変容とその機能的変容を解明するため、これらに関連する文献、政策文書、報告書を幅広く収集した。それと並行して、教育評価に関する理論モデルを整理するため、教育評価の理論に関する最新の文献を収集し、動向を分析した。文献調査では把握することのできない制度の変容実態について知るため、バイエルン州のニュルンベルク市およびバンベルク市、バーデン・ヴュルテンベルク州ワインガートン市を中心に、教育政策担当者、研究者、学校長・教職員などへのインタビュー調査を実施した。
- (2) 教育評価の制度的変容に伴う機能的な変容を考察するため、バンベルク大学およびワインガートン教育大学の研究者たちと、対面ならびにオンラインでルーマンのシステム論に基づく機能的記述の方法に基づく研究討議を行った。とりわけ評価報告機能、時間調整機能、資格認定機能に注目し、中等学校制度の制度再編を通してこれらの機能がどう変化しているのかについて記述を試みた。

4. 研究成果

- (1) ドイツでは、これまでの三分岐型中等学校制度(基幹学校、実科学校およびギムナジウム)が、二分岐型の制度(ギムナジウムおよび非ギムナジウム系中等学校)へと再編されつつある一方で、教育評価制度は、依然として三分岐型(就職資格、中級修了資格および大学入学資格)の修了資格を堅持している。この傾向は依然として変化なく進んでおり、さらに教育評価制度の変容を観察すると、ドイツでは中等教育制度内での接続ルートを拡大する方向での再編が進み、どの学校からも大学入学資格の取得を目指すことができるようになっていくことがわかった。
- (2) こうした状況をシステム論の視点で観察すると、これまでは厳密な成績評価による「良/否」が「進級/落第」に変換され、それがさらに基礎学校修了時の分岐点で各種の中等学校への振り分けに帰結した。そして「過去/未来」の区別で言えば、従来の評価は結果という「過去」に焦点化されていた。さらに各段階の修了時の評価である「良/否」によって修了資格の「有/無」が決まり、それが次の進学や就職への「接続/切断」に変換されたと記述できる。
- (3) それが教育評価制度の再編により、中等学校制度内での「接続/切断」の区別のうち「接続」の側が拡大され、就学期間が弾力化されることで、「過去/未来」の区別のうち「未来」をどうするかに関心が向くようになった。また学習成果をより具体的に評価することで、評

点と比べても「良／否」の区別の適用対象が多様化し、その結果として評点による厳密な判定評価が相対的に後退した。しかし依然として「良／否」が「進学／落第」へと変換されることで、成績不良の場合の結果責任も本人に帰されると同時に、各学校種の学力水準も維持される。とするならば、教育評価制度がその三分岐型の基本構造を堅持しているがゆえに、柔軟な中等学校の接続ルートの編成が可能となっている。

- (4) これらのことから、ドイツの教育評価制度は、その三分岐型の基本構造を堅持することで厳密な評価そのものは維持しつつも、その機能を、分岐点での振り分け(ジャッジ)から目的地までの道案内(ガイド)へと変容させていると解釈できる。

<引用文献>

ト部匡司「ドイツにおける中等学校制度改革に伴う教育評価の機能変容」広島市立大学国際学部『広島国際研究(第27巻)』2021年、67-78頁。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 ト部匡司	4. 巻 27
2. 論文標題 ドイツにおける中等学校制度改革に伴う教育評価の機能変容	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島国際研究	6. 最初と最後の頁 67-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Zeinz, Horst/Urabe, Masashi	4. 巻 32
2. 論文標題 Orientation regarding exposure to failure and conceptions of failure: Two studies of cross-cultural comparison between Germany and Japan.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pacific-Asian Education: The Journal of the Pacific Circle Consortium for Education.	6. 最初と最後の頁 29-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 ト部匡司	4. 巻 1232
2. 論文標題 「質の高い教育」を目指した「Society 5.0」時代の教授学モデル	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学校教育（広島大学附属小学校学校教育研究会）	6. 最初と最後の頁 14-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Urabe, Masashi	4. 巻 41
2. 論文標題 Kleines Auslandsstudium zu Hause: Chancen und Grenzen des digitalen Lernens am Fall des japanisch-deutschen Online-Seminars Global Medial.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Zeitschrift fuer internationale Bildungsforschung und Entwicklungspaedagogik (ZEP)	6. 最初と最後の頁 27 ~ 30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 8件）

1. 発表者名 ト部匡司
2. 発表標題 ドイツにおけるコンピテンシー志向の通信簿評価の試み
3. 学会等名 日本比較教育学会（第57回大会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Urabe, Masashi
2. 発表標題 Foundations of a Concept of “Didactics 5.0” in the Age of the “Society 5.0”
3. 学会等名 Academic Network on Global Education & Learning (ANGEL) 2020 in Oulu (Online) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Urabe, Masashi
2. 発表標題 Funktion und Geschichte deutscher Schulzeugnisse
3. 学会等名 Gastvortrag an der Universitaet Bamberg, Germany (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Urabe, Masashi
2. 発表標題 Comparative Education in Japan
3. 学会等名 Workshop on Comparative Education Research: what can be compared and how? University of Oulu, Finland (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Zeinz, Horst/Urabe, Masashi
2. 発表標題 Human Centered Digitalization in School: The Project “ Building Bridges ” as an Example for Learning in a “ Virtual Reality ” combined with Learning in a “ Natural Reality ”
3. 学会等名 European Japan Experts Association (EJEA) Conference 2019, Technische Universitaet Graz, Austria (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Zeinz, Horst/Urabe, Masashi
2. 発表標題 Teachers’ implicit theories, their use of certain methods in lessons and their job satisfaction. A comparison between a western country (Germany) and an eastern country (Japan)
3. 学会等名 WERA (World Educational Research Association) 2018 World Congress in Cape Town (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Urabe, Masashi
2. 発表標題 Psychological and Pedagogical Aspects in Ongoing Digital Transformation
3. 学会等名 International Conference organized by European Japan Experts Association (EJEA) and Institute for Security and Development Policy (ISDP) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 ト部匡司
2. 発表標題 ドイツ中等教育制度の透過性に関する考察
3. 学会等名 日本比較教育学会 (第53回大会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Zeinz, Horst & Urabe, Masashi
2. 発表標題 How teachers' implicit views on student intelligence or competence influences their selection of pedagogies and influences the teacher's own job satisfaction?
3. 学会等名 Workshop at the VCAA (Victorian Curriculum and Assessment Authority), Melbourne, Australia (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Zeinz, Horst & Urabe, Masashi
2. 発表標題 Teachers' Implicit Theories as Fundamental to Teaching and Job Satisfaction. A Comparison between Germany and Japan
3. 学会等名 SELF (9th Self Biennial International Conference) 2017 Melbourne (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
フィンランド	オウル大学			
ドイツ	バンベルク大学	ミュンスター大学	ワインガートン教育大学	